

— す ジ に 者 員 復 —

一員に寄せる

頗うなたれで難音も低く響にまで見た懐しい故郷の唄車場に降りた時、そして温い肉親の愛の手に迎へ入れられた時、昨日迄の惡夢は去り敗れた祖國平和日本の建設にその一命を捧げやう死を賭して新日本を作り上げやうと堅い決心をしたのである。そして今もぞくくある。その軍閥に欺かれ虚げられ續

船城文化の創 造

第十二號
發城盤
行春
所秋社
平市田六八
號五三二
編經釋行印刷人
高稻水
印刷所
平活版所
週每回土坡行(行)

川和徳一氏紹介(20)

敗戦一年、やうやく活氣を呈するかに見えた各地の文化運動はその後一向進展の色なく、ほんの一部のものを除いては遂に一時の流行的な人氣に終つた様に思はれる。この事は今後の文化運動從事者にとつての大問題となるべきものであるが、單に一片の反故として葬去らずに、よく究明して將來の基礎づけしなければ

（二）日本人は何時の頃から深く愛すると云ふ事をしなくなつたのであらうか廣い意味での人間とその土地に對する執着と愛情を失つたのであらうか。彼等は愛する事よりも、むしろ愛する事の見せかけを演ずる事が、愛する事をかへつて拒否する如き態度をとつて來た。この事は一切の善と美

文化人へ告ぐ

し文化など、これがどういふ事か、さういふ事だ。
再進の徑過だ。
▼長い／＼悪夢から醒めた日、監制より解放された八月十五日が終る……
▼教愛する郷土の文化入達よこの現實を何と見る。卿等のやるべき仕事はこんな裏近な所にある。塔より出て街に息吹を求める。大切な青少年の指導は街にあることを忘れる勿れ……
▼逃避より教聞へ、大膽に積極的に地方文化の指導に一日も早く飛躍することを敢へて勧告する

方法以外の何ものでもな
四
嘗て私は磐城地方には文
求人(大至急)
汽 車 士
賭 婦 四 名
守 術 二 名
工 良 五 十 名
勤務時間 八時—四時
◎収入ハ八月ヨリ從來ノ二倍ナ
給與ス

平市及石城地方事務所平食織共催の粉食展示會は廿日、卅一日の三日間平市役所で開催され、食糧問題の深刻化してゐる現状をみて憂天候をつたにも拘らず、連日非常な盛況を呈した。展示された未利用資源利用の各種パンは矢吹粉化工場、糸津長野旭精工場、東冠栄養食品工場(小名平糧業有限公司)、食糧營團平、製造所をはじめ若松、白河、那

會理事長、工學士) 四ヶ倉の在の
營團 一日 すれ かさ レ類 易化 潤 バン
製塩業を開始、▼瀬谷寅吉郎氏(元愛知女子
學校長) 飯野村谷川瀬に歸佳木永氏(元陸軍主計小
經營、同文書院卒) 四ヶ倉の在の
朝鮮より歸還平市城山に居住
カ・メラ高價買入マス
現像・焼付・引伸し
茂木力メラ

濱崎 胖

（新聞）にめらばれた。〔賭博〕

人に少なからぬ痛快味を感動へずにはおかぬものがゐる。

間興行や免囚保護事業の後切
るといふ彼は「生活が政治が
坡の

△一通りその組織を終つた組合は最近幹部が一時は花

テキ屋連もその腹胸を無鉄砲さは舌を捲いたといふ。彼は當年十三。現在は湯本に興行部を好問には開闢事業をすすめてゐる。近くは田舎検事等と湯ノ嶽二百十町歩の切り下げを受けて、平の鈴木隊明氏を「少年の町役場の町長に推して不良者からの更

△駄菓子衣食住の中で衣服は都
市に五り、洋服の流行の形勢
では、老若男女洋服の盛況を極めて
ある。洋裁塾の盛況を極めて
である。食物も粉食の傾向が

